

船舶事故調査報告書

令和元年11月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年8月3日 13時45分ごろ
発生場所	岩手県大船渡市碁石埼東方沖 碁石埼灯台から真方位085° 1,080m付近 (概位 北緯38°59.2′ 東経141°45.2′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ペーシェ ボランテ} pesce volanteは、航行中、浸水した。
事故調査の経過	令和元年8月6日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート pesce volante、5トン未満（長さ7.59m）
船舶番号、船舶所有者等	241-17140岩手、有限会社吉田工務店
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	主機排気系統のミキシング部ゴム継手に亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.7m、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、帰航中、操縦席の警報ブザーが鳴った。</p> <p>船長は、主機を停止し、数分後に主機を始動させたが、再び警報ブザーが鳴ったので、機関室を点検したところ、黒煙が立ち込め、機関室の床が数cm程度水に浸かっているのを認め、主機を運転させると浸水量が多くなると思い、海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇にえい航されて大船渡市碁石漁港に入港後、機関修理業者による点検の結果、「排気ガスと冷却海水が通る主機排気系統のミキシング部」（以下「ミキシング部」という。）のゴム継手に経年劣化による亀裂が生じて冷却海水が機関室内に漏えいしたことが判明した。</p> <p>主機の冷却海水は、ドライブユニットの海水取入口から機付きの冷却海水ポンプで吸引加圧され、各部を冷却した後、ミキシング部を通過して船外に排出されるようになっていた。</p>
分析	本船は、航行中、ミキシング部のゴム継手に経年劣化による亀裂が生じたことから、冷却海水が機関室内に浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、航行中、ミキシング部のゴム継手に経年劣化による亀裂が生じたため、冷却海水が機関室内に浸水したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ ゴム継手は、長期間使用すれば、劣化して亀裂等を生じるので、定期的に点検を行い、必要であれば交換すること。 |
|--|--|